

校訓	盡己	令和5年度学校通信 「松中だより」 第32号	発行日	令和6年3月11日
教育目標	未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成 ～地域・家庭とのつながりによる レジリエントな学校を目指して～		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 今井 克己

【卒業証書授与式終了 在校生のみなさん ありがとうございます。】

3月8日(金)4年ぶりに全校生徒がそろって卒業式を行いました。メリハリのついた動きや素晴らしい合唱、涙あり笑いありの答辞など、心のこもったいい式になりました。在校生のみなさんからは卒業生のために頑張ろうという気持ちや、次は自分たちの番だという気持ちがうかがわれました。みなさんありがとうございます。



【令和5年 第48回卒業証書授与式 式辞（一部抜粋）】

・・・前略・・・

卒業生に向けて、2つ話をしたいと思います。

一つ目は、未来を創造し、たくましく生きるための「自律と主体性」を引き続き身につけて欲しいということです。

みなさんが中学校で過ごした3年間を振り返ると、新型コロナウイルス感染症による様々な制限の中での学校生活でした。日常生活においても、コロナ禍といわれ、様々な制限がありました。マスクの着用、黙食、手指消毒、リモートワーク……。東京オリンピック・パラリンピックの1年延期、無観客開催もありました。

コロナ禍以外にもロシアによるウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナ問題、猛暑、豪雨、地震、物価高騰など誰もが予測できなかった出来事が次々と起こりました。

これから先、みなさんが生きてゆく時代も予測不可能な、困難な時代といわれています。この時代を生き抜く力として「自分で考え、判断し、責任を持って行動する力」つまり「自律と主体性」が求められています。

今、多くの人に夢と希望を与え、活躍している野球の大谷翔平選手、将棋の藤井聡太八冠は、自分の目標を定め、その実現に向け何をすべきか考え、計画し、行動し、修正しながらどんどん進化しています。そしてそのベースには自分をしっかりコントロールする強い意志、自律があります。二人は、自律と主体性を身につけ、今を生きているのだと思います。

今年度、松崎中学校は自律と主体性を育む学びを進めてきました。みなさんはこの学びの一期生です。そして、この学びは一生続きます。みなさんの活躍を期待しています。

二つ目は、みなさんの命は世界にたったひとつのかけがえのない命だということです。

ここ数年、感染者数何人とか戦争、自然災害で亡くなった方が何人と、出来事の重大さを命の数で伝えられることが多くありました。しかし、命は決して、数や量ではかられるものではありません。命の一つひとつが、世界でたったひとつしかない、かけがえのないものです。

今日、松崎中学校を巣立つみなさんは206名ですが、みなさん一人ひとりが、後ろにいる、みなさんを大切に育ててくれた家族にとって、共に学んだ友だち、後輩にとって、地域のみなさんにとって、我々職員にとって、そしてなによりもみなさん自身にとって、世界にたったひとつしかない、かけがえのない命です。

どうぞ、お父さん、お母さんから受け取った、命のバトンを大切にしてください。そして、大きくても小さくても早くても遅くてもいいので、世界にたったひとつしかない、自分自身の命の花をしっかりと咲かせてください。

本日卒業する卒業生一人ひとりの未来に幸多からんことを、祈ります。

最後になりましたが、保護者の皆様、本校の教育にご理解、ご協力を賜り、ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。

令和6年3月8日

伊丹市立松崎中学校 校長 今井 克己

